

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、緩やかに回復している」

項目	前回（4年10月判断）	今回（5年1月判断）	前回比較
総括判断	緩やかに回復している	緩やかに回復している	→

（注）5年1月判断は、前回4年10月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、供給面での制約等の影響がみられるなか、総じてみれば、足踏みの状況が続いている。雇用情勢は、緩やかに改善しつつある。

【各項目の判断】

項目	前回（4年10月判断）	今回（5年1月判断）	前回比較
個人消費	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→
生産活動	供給面での制約等の影響がみられるなか、総じてみれば、回復の動きに一服感がみられる	供給面での制約等の影響がみられるなか、総じてみれば、足踏みの状況が続いている	→
雇用情勢	緩やかに改善しつつある	緩やかに改善しつつある	→
設備投資	4年度は増加見込み	4年度は増加見込み	→
企業収益	4年度は増益見込み	4年度は増益見込み	→
住宅建設	弱含んでいる	弱含んでいる	→
公共事業	前年を下回っている	前年並みとなっている	↗
輸出	緩やかに増加している	緩やかに増加している	→

【先行き】

先行きについては、ウィズコロナの下で、各種政策の効果もあって、景気が緩やかに回復していくことが期待される。ただし、世界的な金融引締め等が続く中、海外景気の下振れが景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等の影響や中国における感染拡大の影響に十分注意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「緩やかに持ち直している」

スーパー販売は、緩やかに持ち直しつつある。コンビニエンスストア販売は、緩やかに持ち直している。ドラッグストア販売は、増加している。百貨店販売は、緩やかに回復している。家電大型専門店販売は、横ばいとなっている。ホームセンター販売は、弱い動きとなっている。乗用車販売は、供給面の影響により、弱含んでいる。旅行取扱高は、国内向けを中心に、持ち直しつつある。

(主なヒアリング結果)

- 価格高騰により、買上げ点数の低下や低価格品へのシフトといった節約志向の動きがややみられるものの、客単価は前年比プラス圏で推移しており、全体の売上高も上昇傾向で推移している。(スーパー、中小企業)
- 物価高の影響もあり、一部商品に対して購買意欲の低下がみられるものの、さらなる値上げを心配しての駆け込み需要や省エネへの関心の高まりによる高機能なモデルの需要が増加した。(家電量販店、大企業)
- 受注は堅調に推移しているが、依然として半導体の供給不足等による影響が残っており、納期は長期化し、受注残が積みあがっている状況である。(乗用車、中小企業)
- 各種旅行支援策もあり、国内旅行需要は好調である。海外旅行については、件数は増えてはきているものの、円安や物価高・燃油サーチャージの高騰も追い打ちをかけ、回復が鈍い状況である。(旅行、中小企業)
- コロナ第8波の影響はほとんどなく、宴会に対するムードも変化しており、年末年始をはじめ宴会需要が増えている。インバウンドについては、本番はこれからといったところ。(飲食サービス、大企業)

■ 生産活動 「供給面での制約等の影響がみられるなか、総じてみれば、足踏みの状況が続いている」

自動車関連は、供給面での制約等の影響がみられるものの、緩やかな持ち直しの動きがみられる。航空機体部品は、海外航空機メーカー減産の影響はあるものの、緩やかな持ち直しに向けた動きがみられる。金属工作機械は、高水準の受注残を背景に、生産は回復している。半導体集積回路は、弱い動きとなっている。液晶は、横ばいとなっている。開閉機器及びプラグは、横ばいとなっている。電動機は、持ち直している。普通鋼は、おおむね横ばいとなっている。特殊鋼は、引き続き、弱い動きとなっている。

- 半導体不足等の要因から計画どおり生産できない状況が続いている。今後は稼働率が上がる予定であるが、感染拡大や半導体供給状況等により先行きに不透明感がある。(輸送機械、大企業)
- 足下で受注の伸びは落ち着いてきているものの、受注残は高い水準が続いている。部材調達の遅れは解消に向かっているが、想定通りの生産台数を生産できているわけではない。(生産用機械、大企業)
- スマートフォンやパソコン向けの需要が弱くなっているため、需要動向に合わせて生産稼働率を調整している。今後も不透明な状況が続くとみている。(電子部品・デバイス、大企業)
- 調達先の多様化等により部材確保に努めたことで、部材不足の影響が緩和されており、稼働率が上がっている。部材確保の状況次第ではあるが、受注残対応のため、稼働率が高い状況が続くとみている。(電気機械、大企業)
- 完成車メーカーからの受注は徐々に戻ってきているが、完成車メーカーで保有している在庫の調整に時間を要しており、稼働率を落として操業が続いている。(鉄鋼、大企業)

■ 雇用情勢 「緩やかに改善しつつある」

有効求人倍率はおおむね横ばいで推移している。完全失業率は低水準である。求人の状況については、業種間等でばらつきがみられる。

- メーカーからの要請に応えるための体制を既に整えており、現状としては過剰状態。生産量の変動があっても工場内、部署内で調整できている。(輸送用機械、大企業)
- 経済活動が再開する中で、製造業、サービス業含めて人手確保の動きが続いているため、パート職員が集まりにくく、想定6～7割程度しか採用できないこともある。(小売、大企業)
- コロナ禍で多数退職したため、足下では人手不足で作業量が増加しているが、人手確保については地域内で時給合戦となっており、客数増加で経営状況が改善し、賃上げができるまでは人手不足状態での運営となる。(サービス、大企業)
- 繁忙となり人手が不足している。賃金を上げて募集をかけているものの、欲しい人数は採用できていない状況。(サービス、大企業)
- 製造業での人員確保がある程度進んだことなどにより、新規求人の波が落ち着いた。(労働局)

■ **設備投資** 「4年度は増加見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年10-12月期

- 製造業では、生産用機械が減少となるものの、情報通信機器や輸送用機械などが増加となることから、増加見込みとなっている。
- 非製造業では、建設が減少となるものの、運輸などが増加となることから、増加見込みとなっている。

➤ 車載向け半導体需要の高まりを受けて、生産ラインを増やすなどの増産対応をメインに行っている。(情報通信機器、大企業)

■ **企業収益** 「4年度は増益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年10-12月期

- 製造業では、食料品や窯業・土石などが減益となるものの、輸送用機械などが増益となることから、増益見込みとなっている。
- 非製造業では、建設や不動産などが減益となるものの、サービスなどが増益となることや運輸が黒字となることから、増益見込みとなっている。

■ **企業の景況感** 「『下降』超となっている」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」4年10-12月期

- 景況判断BSIでみると、全産業の現状判断は、「下降」超となっている。また、先行き(5年1-3月期)は「下降」超幅が拡大する見通しとなっている。

■ **住宅建設** 「弱含んでいる」

- 住宅建設は、貸家、分譲住宅が前年を上回っているものの、持家の減少傾向が続いていることなどから、弱含んでいる。

■ **公共事業** 「前年並みとなっている」

- 前払金保証請負金額でみると、市町村、地方公社等は増加しているものの、県、独立行政法人等が減少していることから、前年並みとなっている。

■ **輸出** 「緩やかに増加している」

- 輸出(円ベース)は、緩やかに増加している。なお、輸入(円ベース)は、前年を上回っている。

■ **企業倒産** 「件数は前年を上回っている」

3. 各県の総括判断

	前回(4年10月判断)	今回(5年1月判断)	前回比較	総括判断の要点
愛知県	緩やかに回復している	緩やかに回復している	→	個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、供給面での制約等の影響がみられるなか、総じてみれば、足踏みの状況が続いている。雇用情勢は、緩やかに改善しつつある。
岐阜県	持ち直している	持ち直している	→	個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、供給面での制約等の影響がみられるものの、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、緩やかに改善しつつある。
静岡県	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	→	個人消費は、持ち直している。生産活動は、供給面での制約の影響がみられるものの、緩やかに回復しつつある。雇用情勢は、緩やかに持ち直しつつある。
三重県	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	→	個人消費は、緩やかに持ち直している。生産活動は、一部で調整する動きが強まっていることなどから、全体では弱含みとなっている。雇用情勢は、改善に向けた動きが続いている。